

シオンだより

発行 社会福祉法人 思恩会
児童家庭支援センターシオン（七窪思恩園内）
Tel0235（68）5477 Fax0235（68）5478
発行責任者 所長 佐藤以中
平成28年 2月 第28号

ヘネシー澄子先生が、 シオンセミナーで講演してくださいました。

平成27年11月8日、米コロラド州在住のヘネシー澄子先生（クロスロード・フォー・ソーシャルワーク社 所長 東京福祉大学名誉教授 社会福祉学博士 臨床ソーシャルワーカー）を講師に、「生きづらさと向き合う ～あるがままを認めて～ 前向きに生きる弾力性」というテーマでセミナーを開催しました。

愛着の絆は「子どもの脳と体の正常な成長を促す」など、愛着や子育てについての重要な事柄を科学的見地から、大変分かりやすくお話してくださいました。



父の役割

乳児期は母の補助役、赤ちゃんと遊ぶ役割。
1才過ぎたら子どもの攻撃性を調整する役割。
2才位から、子どもにとって男性として大切な人になる。
アメリカの研究調査によると、父がしっかり励まして関わった子は、
・自信と自己尊重を埋め込む ・視野が広い
・トラウマ的出来事に対して弾力性がある

母の役割

「母は安全の港」
母の胸や背に密着することにより、温かさ、匂い、声、子宮で聞いた心音、母との一体感を感じ、深い安堵感・安心感を与える。
母は安全・安心の基地であり、「恐怖」「不安」の感情を鎮める。

愛着の絆

保護者と子どもとの間で、お互いが結ぶ、深い、恒久的な、生理的・社会的・情緒的・知的な絆。

お互いが望むなら、何歳になっても結び直すことができる。

自分を無条件で愛してくれる、受け入れてくれる人がいると前向きに生きることができる。



親・保護者・大人ができる愛着を深める行動

① 目を合わせる・目を見て話す訓練

表情を読み取ることを教える

対人関係の第一歩

ミラーニューロン(鏡脳神経)発達への刺激

② お互いに微笑みあう

優しい顔つきは、子どもが「受け入れられた」「自分は愛されてよい人間だ」と実感する

③ 子どもを抱く、抱擁(ハグ)する

扁桃体の興奮を静め、緊張ホルモンの分泌を抑える

セロトニン(良い気持ちにさせる脳内伝達物質)の分泌を促す

④ 抱擁にリズムをつけて揺する

脳幹機能の調整 自分を癒す能力を育む

緊張ホルモンの分泌を抑える

⑤ 優しい接触とマッサージ

脳の緊張を解き、体の発育ホルモンを分泌させる

水着で隠れる所は絶対に触らない

⑥ 感情を言葉で表現させる

感情(右脳)と理性(左脳)の統合を促す → 脳梁の発達

感情をすぐに行動に起こさないことで、衝動を抑える前頭葉の発達を促す → 自制能力

子どもが感情を言葉で表現したら「言葉で気持ちを伝えてくれてありがとう」と言ってから返答する

⑦ 衝動的な行動をとどめ、待つ事を学習させる

待つことは前頭葉を発達させる 待てたらご褒美(やさしい言葉かけ、優しいタッチ、果物など)

⑧ 少しでも良い所を探し、その行動を描写して褒める

肯定的な自己意識の形成 → 親から褒められることは、子どもに自信を持たせ、自尊心を育てる

⑨ 明るく、静かな声かけ

叱らず、質問形式にして考えさせる → 前頭前野の発達

しつけとは「肯定的に」教えることで、叱ることではない

叱る時は60秒で、短く一つのことだけ言う(自分や他人を危険にさらすときのみ)

⑩ 発育段階に適した家庭内のルールを作る

あいさつ・お礼・声かけなど子どもに教え、大人も必ず言うこと

して良いこと・悪いことのルールを作り守らせる → 子どもに安心感を与える

できるだけ子どもに選択の機会をつくる → 社会のルールを守ることを覚える

来年度もセミナーを企画いたします。お楽しみに！

児童家庭支援センターシオン

住所： 鶴岡市下川字窪畑 1-288

TEL： 0235-68-5477 FAX： 0235-68-5478

メール： tzion@shionkai.hs.plala.or.jp

《業務内容》

子どもやその家庭に関する相談・支援を県より委託された専門機関です。

子どもに関わる相談を受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。

《利用方法》 電話やメール、手紙の他に

【来所相談】予約して頂き、シオンにおいて下さい。

【訪問相談】来所が難しい場合や相談内容に応じて、訪問相談もいたします。